愛町の應募作

〈あつまる〉

大白根町建設論文発表

先に募集した、大白根町建設論文募集には、郷土の町を愛し、町の発展を希求する論文が寄せられた。此処にその一編を掲載致しますが、應募作は毎号逐次発表致しますから御期待下さい。尚審査結果による入選者氏名の発表は次号におしらせ致します。

裏日本の醸造都市建設へ

二之丁　武田龍也（明治元・十一・六生）

産業

吾が白根町は、近郷農村の零細な購買力を頼り、生計を樹てる外何等外に見る可き近代産業なく、極く有りふれた商人町で何十年否何百年間、只米作の良否に一喜一憂し、全面的に農作に、町勢を左右され、将来も又永久にこれを繰返して行かうとして居る現状である。

其の周囲農村も、西に巻、東に小須戸、新津、南に月潟、の競争相手に包囲され、今にして立上らずんば、将来の町勢の発展など、到底望む可くもなく、むしろ一歩〳〵衰退の一途をたどる外はないで有らう。

由來白根人は勤勉である。其の一例として自分は床屋以外に各個人業者で、本日定休日の札を店頭にかゝげ、休んで居るのを見聞した事がない。それ程働き虫であるが、只馬車馬的の働き丈けで、各自バラ〳〵では業界の発展、町勢の伸長には何のプラスには成らないのである。

産業のスケールの大きさに於て、すでに世界的に進出せる、燕、三條の金属工業の足下へも寄れず、縣下縣外に名声を博している加茂、亀田、小須戸の織物工業の堅実さと安定性に遠く及ばず。又巻、新津の如く諸官庁学校の所在地たり得ず。其の上最も致命的欠点は、鉄道路線からオミットされた棄て児で有る点で最もこれが今迄悲観論者の称へる十年一日の如き白根町の今日在る最大原因を成して居るのかも知れない。併し全じ棄て子でも山の中の棄て児ではない新潟市を見よ、決して鉄道の要衝とは云えない。丁度新津から母家の本建築に差掛けの便所か台所の如き鉄道の引込み方じゃあるまいか。併しそれでも堂々今日の大を成してるではないか要は人工で如何にでも左右出来る白根町の位置で有り、宿命的にあきらめる必要は更にない筈である。

次に楽観論者は、口を開けば大工場の誘致、学校の設置をさけぶ。其の論理は大いに宜しいが何を好んで悪條件の山積する土地へ工場の設置をする会社があるだらうか。先づ威勢の良い空論でなく地味でも具体的なお膳立てをハッキリしてそれからの話である。具体的には先づ第一に輸送力の確保と陸路は新潟交通の路線を中の口を渡つて鉄道の要衝新津駅に直結し、出来得れば巻へ延長する事。水路中の口を新潟港の運河とし、町の適当の個所に、大規模の船着場倉庫を建設する事。揚子江の河港を見習へば良い。大河津分水完成の今日、堤防に多少の變化を加へても技術的に差支へないと思ふ。

次に産業の種類で有るが、金属工業、機械工業、織物工業等先進地、近接都市の猿真似をして無益の競争や、徒に敵を求めるよりは、むしろ近接都市から十二分の應援を受けられる、白根特有の産業を樹立すべきで有ろう。往年山吉、石川の醤油が縣下は勿論の事、遠く津軽海峡を渡つて北海道方面迄進出したと聞く。私はこれを基本に大資本を導入、近代的設備を持つ醤油、味噌の大醸造会社を設置し名実共に関西の丸金、関東のキッコー萬、山サ、ヒゲ田と堂々肩を並べる製品を産出し、表日本の野田、裏日本の白根と対立黄金時代を現出するのも夢物語りではないと思ふ。

勿論設立には白根出身、縣出身の財界、政界有名人と地元有志のタイアップで株式会社とする。地元の熱意と政治力と受入態勢如何に依つては実現の可能性は十二分であると確信するのである。又函館の相馬、小熊、堤、小樽の坂谷、札幌のデパート主国今井等北海道財界の巨頭殆んど新潟縣人と聞いて居る。これら財界の援助でサッポロビールの工場をも誘致し、醤油、ビールの原料は海路新潟港へ陸上げせず、ハシケで中ノ口を上つて白根河港へ陸上げ引込線で工場へ直結する。斯くて鉄道の棄て子も水運利用に依り、運賃の点で却つてプラスに成り、生産コストを有利にする。

製品の販路は最初は東京、北海道と大消費地の縣人会を対照に、宣伝は丸井デパート、須川町、澁谷両食堂に一はだぬいで貰ひ、声價の上るに及んで有名品に切込んで自由競争で堂々四ツに組む。理想としては東京、北海道の縣人会員から投資して貰ひ度いのである。

次に蒲原の大平野の中心に大消費地を控へて化学肥料の工場も建設したい。勿論天然ガスの百パーセント利用、従業員の勤勉性と人件費の安價、凡てが生産コストに有利に響く事は当然で有る。

斯くて凧揚げの名物白根も、大醸造都市として、煙突林立し駅頭に降り立つ旅客の鼻にプーンと醤油の臭ひがする、活気の溢れた大白根が現出し、それに醸造会社に附随する樽、ビン、箱、細各工場、運輸関係等勤労者受取態勢確立で町に一人の失業者もなからしめる事が出来る筈である。

尚会社の発展とにらみ合して白根町に醸造化学専門学校を将来設立したい。（パン煎餅加工業）

洋裁講習會

盛會裡に終る

婦人協會　公民館　共催

去る七月二、三、四日の三日間、婦人協會の方々のお骨折りで、斯界の権威、芦田勲先生岩瀬啓子女史を招いて役場三階で洋裁講座が開催された。受講人員延五百五十名の盛會であつた。久しくこうした講習會がなかつたのか、又婦人層の教養向上の熱意が高まつて來たのか、若い方々の受講が目だつた。

机も腰掛もない会場で、ぎつしり座つたまま型紙をさばいて居られる姿を見て、気の毒でならなかつた。せめて白根町でどこか廣い場所があり、熱心な方々を収容し、ミシンも使用できる施設がほしいものだ。

今回の講習を見て感じたことは、一般婦人層の知識欲が旺盛になつた、生活に直結したすぐに役にたつ講習を一般が切望しているということだ。この点を公民館としても考え、次期の定期講座を開催しなければならない。目下のところ公民館の職員の方々も懸命に努力をしているのであるが、何分手不足のためできないで申訳なく思つている各種團体の連絡やお世話を充分今後精々努力してサービスセンターとしての使命を果したいものだ。（清水）

テント二張り到着

先に註文致してありました、教育庁のあつせんの天幕は去る七月十八日到着した。一間半×二間のもの二張で運搬にも手頃で、運動會、各種体育大會等の催しに大いに役立つことと思はれる。各種團体の利用をお待ちして居ります。

産業育成資金

貸出事務始まる

中小商工業者の金融難をいくらかでも救済し、併せてその育成を図るため、縣より三〇万円、町より一〇万円、計四〇万円を金融機関に預託して町の商工業者に貸付致します。

取扱いは役場勧業課で受付け町の商工會長を委員長とする融資委員會で諮り、採否決定の上金融機関より貸付けを致します一件の貸付は最高五万円、二ケ月の貸付期間です。詳しくは勧業課でお尋ね下さい。

預託金融機関は左の通りです

第四銀行白根支店

新潟無盡白根支店

圖書室

愈々近く開設の豫定

公民館図書室に関して、数年来計画されて來たが、去る七月四日の審議會に於て、町役場小委員室をそれに取あへず兼用して当てることに協議一致した。町立白根図書館の書棚や蔵書を借用して近く開設の運びになる豫定である。亦町立白根図書館の寄贈者の御意志を尊重し、将来町立白根図書館の開館、図書館法に則つた町立白根図書館の建設等の暁は、あげて公民館図書室はそれに吸合されることに満場了解せられた。

◎固定資産の評價について

各位に御願い

本年度の固定資産税の第一期第二期、第三期分までの課税標準額は假の額でありまして従つて税額も假に算定された税額であります。

この固定資産即ち土地、家屋償却資産につきましては、來る九月末日まで個々に評價を致して課税標準額の本決定を致し、それによる税額と假の税額との差額、を第四期分（十二月）に於て精算致す事になつて居ります。

つきましては評價係員が今月初めより白根町の総ての固定資産の実際調査を実施して居ります。何卒各世帯に於かれましては、何分の御便宜を與へ下されて、適正な評價に御協力を御願い致します。（白根町役場税務課）

映寫機

近くおめみえ？

去る七月四日の運營審議會に於ては、十六ミリ映寫機購入に関して種々協議されたが、結局一三七、二〇〇円の追加豫算が必要であり、町当局と折衝して來る町議會に提出して頂くやう努力することに満場一致決定した。

映寫機の購入はP・T・A関係教育関係は勿論の事、住民の要望でもあり、ことに今後の社會教育、学校教育と云ふものが視聴覚教具を利用することによつて大きな成果をあげることが豫想せられ、亦今後気候も良くなり、夜外映寫會や各種團体の利用にも供せられ、今からその購入実現が一日千秋の想いで期待せられてゐる。

民生委員改選さる

今般民生委員の任期満了に際し、推薦委員會では左の通り新しい民生委員（児童委員兼務）を推薦決定した。尚任期は三年であり（　）内は担当區域である。

常務委員　川瀬平一郎

（諏訪木）　佐野熊太郎

一ノ町砂押　石川石次郎

（二、三、四）　谷　太一郎

（櫻　町）　田邊粂一

（横　町）　小出イクヨ

（五六ノ町）　笹川喜一郎

（魚　町）　外山ノブ

（能　登）　小山久松

（七軒　四ッ興野　月潟）　高橋玉枝

（十五軒以北）　田村平造

◉公民館運營審議會委員

（順不同）

清水節幾　片桐嶽一　坂西文治　川瀬平一郎　渡邊留吉　佐野善榮知　田村貞次郎　石川キヨノ　吉川キミ　田村喜一郎　上杉貞治　眞島吾一　長井平松　長谷川豊藏　本田榮司　清水勇市　堂下正直　阿部善二　関根寛治　杉澤三郎　皆澤英太郎　石川傳三郎　玉木篤治　若槻数林　外山儀三郎　藤崎清吉　藤野恒三　和田藤一郎　丸山鉄治　長瀬鈴

◀◀懸賞当選者発表▶▶

（第五号）

答（北若組、三勝）

一、応募者　二七名

二、正解者　一名

三、当選者氏名　諏訪木第三　吉川末吉

四、賞品は八月十五日までに役場内公民館係よりお受取り下さい

公民館の歩み

五月廿一日、廿四日　巡回映画会開催

六月六日　公民館報第五号発行

六月七日　館報編集委員会

六月八日　凧合戦技術優勝旗を寄贈

六月九日　趣味藝能部々會

六月廿五日　相撲協會土俵開きを後援

七月一日　連合青年會主催町内対抗体育大會を後援

七月二・三・四日　婦人協會共催洋裁講座開催

七月四日　運營審議會　映寫機購入・図書室設置　公民館規則、運營審議會規則等について審議

七月十四日　館報編集委員會

七月十六日・十七日　CIE映画會開催

七月二十日　小中学校P・T・A児童委員會主催　片桐健三郎氏の講演を後援

七月廿二日・廿三日　巡回映画會開催

◉原稿募集

1. 感想、随筆、短文藝（郷土的な物）
(イ)感想、随筆は千字内外
(ロ)短歌、俳句、川柳三首三句以内
(ハ)詩は二十行内外
2. 町民の声　五百字内外
3. 原稿は原稿用紙、種別毎に別紙
4. 締切　八月末日
5. 宛先　白根町役場公民館係

祝 中蒲原郡青年体育大會　於 白根校グラウンド